

落下物防止柵設置工

支柱添架タイプ（Gr支柱及びGo支柱）

制定・改定日 2024.02.20

項 目	内 容	留 意 事 項
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業打合せ(KY活動) 規制及び作業内容等の確認 保護具の確認 使用機械、照明器具、資材、工具の点検 架空線、埋設物の位置確認 	<ul style="list-style-type: none"> 安全打合せ書により確認及びKY活動実施 作業員全員への周知徹底(埋設物等含む) 作業別安全チェックシートの活用 作業車の安全装置の確認
支柱増設(支柱間隔4mの場合)	<ul style="list-style-type: none"> 現場KY活動の実施 現場状況を確認する。 作業方法・作業手順・作業分担を確認する。(埋設物協議、作業手順書等) 支柱設置位置を確認しマーキングを行う。 支柱はエアーストライカーを使用し所定の高さまで打ち込む。 打ち込んだ支柱は、高さ、方向を確認する。 既設Gr及びGoと取付金具をも用いて打ち込んだ支柱と接続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に関する注意事項を確認し、KYTを行う。 作業にあった適切な保護具の着用をする。 埋設物等の明示及び防護を行う。(埋設物協議参照) 作業方法、手順等にあつては、埋設物協議、作業手順書等を確認し職長が当日の作業員を適切に配置し監視、指導する。 クレーン操作、玉掛けなど使用する場合は有資格者が行う事 アウトリガーを最大に張り出し作業する。 旋回範囲に作業員を立ち入らせない事。
落下物防止柵支柱設置	<ul style="list-style-type: none"> 作業方法・作業手順・作業分担を確認する。(埋設物協議、作業手順書等) 支柱をユニックにて吊る際は、地切りを行い安定を図る。 支柱に親子バンドを取り付ける。 親子バンドに落下物防止柵の支柱を取り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業にあった適切な保護具の着用をする。 埋設物等の明示及び防護を行う。(埋設物協議参照) 作業方法、手順等にあつては、埋設物協議、作業手順書等を確認し職長が当日の作業員を適切に配置し監視、指導する。 クレーン操作、オーバーハング車、玉掛けなど使用する場合は有資格者が行う事 アウトリガーを最大に張り出し作業する。 旋回範囲に作業員を立ち入らせない事。
胴縁・金網等設置	<ul style="list-style-type: none"> 作業方法・作業手順・作業分担を確認する。(埋設物協議、作業手順書等) 所定の位置に胴縁を取り付ける 胴縁取付け後、金網を取り付ける。 支柱をユニックにて吊る際は、地切りを行い安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業にあった適切な保護具の着用をする。 埋設物等の明示及び防護を行う。(埋設物協議参照) 作業方法、手順等にあつては、埋設物協議、作業手順書等を確認し職長が当日の作業員を適切に配置し監視、指導する。 クレーン操作、オーバーハング車、玉掛けなど使用する場合は有資格者が行う事 アウトリガーを最大に張り出し作業する。 旋回範囲に作業員を立ち入らせない事。
落下防止ワイヤー取付	<ul style="list-style-type: none"> 取付箇所を図面により確認する。 作業方法・作業手順・作業分担を確認する。(埋設物協議、作業手順書等) 定着プレート用の削孔位置を確認する。 ハンマドリルにて規定の深さまで削孔し削孔穴を清掃する。 定着プレートを取付る。 落下防止ワイヤーを支柱に取付け、両端を定着プレートへ固定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業にあった適切な保護具の着用をする。 埋設物等の明示及び防護を行う。(埋設物協議参照) 作業方法、手順等にあつては、埋設物協議、作業手順書等を確認し職長が当日の作業員を適切に配置し監視、指導する。
後片づけ	<ul style="list-style-type: none"> 現場内および周辺に残材が残らぬよう清掃する。 使用した資機材をトラックに積み込む。 清掃終了後は、責任者が必ず現場を確認し撤収する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 荷台などに資機材の置き忘れがないか確認する。 車両からの飛散防止対策(ネット、資機材の固定)がされているか確認する。

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
作業責任者	1名	ダンプトラック(2t)	発電機	支柱	ワイヤークリップ	ヘルメット	切創手袋
現場監視員	1名	トラック(2t)	電エトラム	胴縁	ターンバックル	反射(自発光)チョッキ	消火器
作業員	4名	クレーン付きトラック(4t)	インパクトドライバー	金網	落雪ネット	警笛	墜落制止用器具
		オーバーハング車	ディスクライナー	定着プレート		保護マット	
		エアーストライカー	ハンマドリル	ワイヤー		防塵マスク	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.機械作業は、有資格者が必ず行う。(免許・資格証は必ず携帯する)
- 2.機械の操作方法、安全装置の確認を充分行うこと。
- 3.作業に合った保護具を使用する。(保護マット・防毒・防塵マスク・耐切創用手袋等)
- 4.消火器を設置する。
- 5.一人作業の禁止
- 6.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 7.作業で使用しない工具は、発電機を切るかコンセントを抜き、誤作動がおこらないようにする。

■条件

- ①5m以下は「胴ベルト型」の使用も可能とするが、新基準適用のものを使用するものとする。※なお、作業で5mを超える可能性がある場合は、「フルハーネス型」を使用するものとする。
- ②作業床があり、囲い、手すり等を設けている箇所では作業する場合には、「胴ベルト型(新基準適用)」の使用も可能とする。
- ③フーム式高所作業車を用いて作業を行う場合には、5m以下のみの作業「胴ベルト型(新基準適用)」の使用も可能とする。※なお、作業で5mを超える可能性がある場合には、「フルハーネス型」を使用するものとする。
- ④巻き取り式ランヤードについては、「第2種」の使用も可能とするが、5m以下でしようする場合には、落下時に地面に到達しない場合にフックが取付可能なことを必ず確認のうえ、使用するものとする。